

金滝沢
赤川中俣(下降)

1982年7月11日

L

やぶこぎ15分位で沢に出る。右岸にいくつもの炭焼き釜あとを見ながら下降する。やがて沢が狭くなって右岸から支沢が合流する所を過ぎ、しばらく下ると1.5mの滝。両側は岩場になっている。途中に倒木がひっかかっている。クライミングダウンにて下降。この先沢が右に曲がった所に、3mの滝をかけ、大きな支沢が合流している。

岩質が変わった。種類はわからないが黒っぽい色をしている。兩岸に岩場が次々に出てくる。所々にナメがある。この岩場が終わる頃、植林地帯に出る。やがて左俣が合流する。沢が右、左へとつづら折れのように曲がる。やがて橋が見えてきた。今朝方通過した右俣との合流点のすぐそばを走る林道の橋である。下降終了13時55分。

(記:)

尾根・下降点(11:05)——沢(11:20)——
左俣出合(13:45)——右俣出合(13:55)



南沢
赤川左俣

1982年8月13日

右俣および中俣の様子から、この左俣もたいしたこととはなかろうと思い、今日は少し息ぬきをしようところを選んだ。

左俣に入るとまもなく、沢は明るい植林地帯を離れて、林の中を流れるようになる。5mの滝が出てきた。右岸を直登する。ホールドが豊富なので、いろんなルートがとれそう。少し進むと今度は3mハング滝。滝の右はしにルートを求め、流木を利用して越える。この先はナメとなった。中俣や右俣とはかなり様相が異なるようだ。

9時30分、右沢出合。左沢を進むが、小滝が連なっており、劇的な面白さはないが、退屈することもない。やがて、

赤川左俣